

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
21UMUA2105	応用英語ⅠA	2	ポップミュージックを題材にリスニング力を高め、自然な速度での発話において生じる英語特有の音声変化やリズム・ストレスを体系的に学び、聞き取りの力を養う。英語で洋画を見ながら英語文化圏への関心を深めるとともに、日常会話、さらに文法知識や語彙の強化を目指す。	英語で歌われるポップスやロックのヒット曲を教材として、さまざまなリスニングの課題に取り組みながら、正確に理解するための基本的能力の養成を目指す。なおこの科目は音楽療法の英文を読む際に必要な知識や技能を身につけることを目指す。		◎												○			
21UMUA2106	応用英語ⅠB	2	この科目は「応用英語ⅠA」の継続科目である。前期に引き続き英語の発展的基礎学力の向上、英語特有の音声変化やリズムの習得、英語の分析的読解力の養成を目的とする。	自然な速度での発話において生じる英語特有の音や音変化に慣れ、それを言語音としての意味理解につなげ、発話内容を正確に理解するなどの聞き取りに必要な基本的能力の養成を目指す。		◎												○			
21UMUA3107	応用英語ⅡA	3	留学を視野に入れ、TOEICやTOEFLで高得点をあげられるよう、英語力の向上を目指していく。	英文を独力で読解する能力を身につける。		◎													○		
21UMUA3108	応用英語ⅡB	3	留学を視野に入れ、TOEICやTOEFLで高得点をあげられるよう、英語力の向上を目指していく。	英文を独力で読解する能力を身につける。		◎													○		
21UMUA1109	Oral Communication	1	「英文法はある程度わかっていても、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	英語の基礎文法や語彙などを復習しながら、インタラクティブな授業を通して様々な状況での基本的な実用会話ができるようになることを目標とする。		◎													○		
21UMUA1110	情報リテラシーⅠ	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。 ・基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 ・レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。 															◎		
21UMUA1111	情報リテラシーⅡ	1	MS-Excelを発展的に取り扱うことにより、データ処理の知識と技能を習得する。「情報リテラシーⅠ」では十分に行えなかった、MS-Excel/Wordを連動的に取り扱うことにより、専門教育課程の課題やレポート作成とビジネス現場で適用できるデータ処理の基本的技能を習得する。	専門教育で取り扱う各種データをMS-Excelで処理し、レポート作成や卒業論文に役立つレベルを目標とする。																◎	
21UMUA1200	ピアノ実技ⅠA	1	音楽教員をはじめ音楽療法など応用音楽の領域に必要なピアノの演奏技術を習得し、音楽性を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基礎的な演奏技術を習得し、音楽的な表現能力を高め、初見能力もアップさせることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎	○	○										○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																
					1. 知識・理解				2. 技能・表現				3. 思考・判断				4. 態度・志向性				
					1-1	1-2	1-3	1-4	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	3-4	4-1	4-2	4-3	4-4	
21UMUA4221	作・編曲法 A	4	主に歌曲の創作を通して、作曲のプロセスを学ぶことにより基礎的な作曲技法を学習するとともに、作曲家の意図する音楽はどのようなものか把握し、歌唱の団体指導や演奏に反映することのできる能力を養うことを目的としている。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○								◎								
21UMUA4222	作・編曲法 B	4	器楽作品を主な題材に、作品の作られた時代背景にも考慮しながら作品分析を行い、音符や記号、楽語などの情報表現を含む基礎的な作曲技法を学習するとともに、作曲家の意図する音楽はどのようなものか把握し、応用音楽の現場における団体指導や演奏に反映することのできる能力を養うことを目的としている。	西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。	○								◎								
21UMUA2223	旋律と和声 A	2	多種の和音、およびそれが作品の中で使われる際の多様な意味を、時代背景や地域性をも考慮しながら研究し、作品を深く理解する能力を養う。	和声課題の実践能力と、楽曲における和声の仕組みを読み取り考察する能力とを身につける。	○								◎								
21UMUA2224	旋律と和声 B	2	多種の和音、およびそれが作品の中で使われる際の多様な意味を、時代背景や地域性をも考慮しながら研究し、作品を深く理解する能力を養う。	和声課題の実践能力と、楽曲における和声の仕組みを読み取り考察する能力とを身につける。	○								◎								
21UMUA2225	教育伴奏法	2	中学、高等学校の授業および音楽療法の現場で取り上げられるような教材を用い、各曲の指導のねらいとポイントにそった音楽づくりができるような伴奏および弾き語りをする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	伴奏を通して音楽全体を把握し、より良い音楽表現を目指して弾き語りすることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。								○	○	◎							
21UMUA2226	実用楽器入門	2	自分の専門以外の電子楽器、ギター、打楽器についての幅広い知識と基本的な演奏技術の習得を目的とし、広く器楽教育の視野を持てるようにし、教育セッションや交流の場で応用できる能力を養成する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	科目習得時には、電子楽器、ギター、打楽器について、基本的奏法を修得する。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○							◎	○	○							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																			
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																			
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性																
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4						
21UMUA3257	臨床医学各論Ⅰ	3	うつ病を15人に一人が経験するとされるなど、精神障害が身近で頻度の高い疾患であること、そして決して特別な病気でないことが最近では広く知られるようになってきている。正しい精神障害に対する知識を深めることを授業目的とする。	音楽療法士資格試験を合格できるだけの精神医学の一般的な知識を得る。				◎																
21UMUA3258	臨床医学各論Ⅱ	3	日本音楽療法学会が出題している音楽療法士(補)認定試験問題を解くために必要な知識のうち、“臨床医学各論Ⅱ”の関連分野である“小児の身体的および認知面の発達と疾患”について、音楽療法士として理解しておくべき内容について講義を行う。	ヒトの身体の解剖生理、小児の身体的、認知的発達の基本的仕組みを理解する。さらに発達からの逸脱、疾病、特に後に障害の原因となる病態について理解できるようにすることを目標とする。				◎																
21UMUA3259	音楽療法演習	3	音楽療法の知識や技法を習得し、実践への応用力を養う。	・高齢者への音楽療法の技法を習得する。 ・子どもへの音楽療法の技法を習得する。 ・音楽の諸要素を療法的に活用する方法を知る。 ・多様な症例を想定した素材・教材について研究する。 ・音楽療法実践場面に必要な観察・評価法を学ぶ。								○			◎	◎		○				○	○	○
21UMUA1260	音楽療法実習Ⅰ	1	様々な音楽療法の対象者や方法、および臨床の実際について、体験学習を通して基礎的理解をする。	・高齢者の音楽療法の実際について知る。 ・子どもの音楽療法の実際について知る。 ・病院における音楽療法の実際について知る。										◎		◎	○	○	◎	○	○	○	○	○
21UMUA2261	音楽療法実習Ⅱ	2	社会的体験を通して、対象者および対人援助についての理解を促進する。	・子どもの音楽療法について知る。 ・高齢者への音楽療法について知る。 ・対人援助に必要なマナーや態度を習得する。 ・音楽療法における観察と記録の方法を習得する。										◎		◎	○	○	○	◎	◎	○	○	○
21UMUA3262	音楽療法実習Ⅲ	3	社会的体験を通して、対象者および対人援助についての理解を促進する。主に高齢者に対する音楽療法実践に必要なとされる基本的な技能、態度を習得する。	・認知症高齢者への音楽療法の実践方法を学ぶ。 ・アセスメントと目標の設定について学ぶ。 ・音楽療法における適切な音楽の選曲や演奏方法について学ぶ。										◎		◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	○
21UMUA4263	音楽療法実習Ⅳ	4	専門的な観点から対象者を理解し、自立的に音楽療法の臨床、実践を行う力を養成する。	・対象者へのアセスメントを行う。 ・対象者に合わせた音楽療法の目標を設定し、計画、実施する。 ・適切な音楽を選択し、療法的な効果をもたらせるように活用する。 ・対象者が演奏しやすいように伴奏する。 ・音楽療法の評価を行い、事例レポートを作成する。										◎		◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	○
21UMUA3264	音楽療法研究法	3	この授業において、前期は文献調査の方法や音楽療法研究の主な手法について理解を深め、自らの研究テーマを探る第一歩とする。またExcelを用いて統計解析とグラフの作成を行い、データ解析の基礎を身につける。後期は、音楽療法士として自己形成する目標と方法を確立し、音楽療法の実践を事例研究レポートとしてまとめあげる力を養う。	通年の授業を通して以下の到達目標を設定する。 ①文献や資料をもとに音楽療法の研究方法、研究内容を理解し、自らの関心領域を見つける。 ②量的研究について認識を深め、データの集計や基本的な統計解析から音楽療法の効果を客観的に考察する力を身につける。 ③質的研究について、個々の多様な事例の理解を深め、療法的視点で考察できる力を身につける。 ④音楽療法関連分野の質的・量的研究、新しい研究事例の学習を通じて、対象者のニーズに応じた臨床・研究法を提案できるようになる。 ⑤授業全体を通して自ら設定した研究課題について、研究計画が立案できるようになる。																	◎	○		◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性							
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4			
21UMUA4265	音楽療法総論	4	音楽療法と関連分野の総合的な知識の修得、および理解の深化を目的とする。	以下の領域における知識を修得する。 ・音楽療法 ・音楽 ・音楽心理学 ・統計 ・研究方法 ・臨床心理学 ・発達心理学 ・基礎医学 ・小論文の書き方		○				○			◎	○	◎	○				○	
21UMUA1266	音楽社会学概論	1	「音楽」を通じて社会を見るための広範な知見を得られるようにする。テキストの購読を中心とし、そこから音楽および音楽社会学を取り巻く状況や、関連する学問分野について学ぶ。	身近な音楽と社会の関係を自ら発見できるようにする。	◎														◎		
21UMUA4267	音楽教育学研究	4	本科目では、近年の音楽教育研究において、どのようなアプローチで課題解決を図っているのかを学び取り、学生自らの問題意識と結びつけながら思考する力を養う。	音楽教育学の理論的な思考法を理解し、自らの考えを述べることができる。		○								◎							
21UMUA1268	環境と音楽	1	音楽と、音楽がおかれる環境に関して多角的に学ぶ。	音楽活動が行われる環境について広い視野をもてるようにする。		◎													◎		
21UMUA3269	生涯学習関係論Ⅰ	3	本授業では、生涯学習に関する基礎知識を学び、生涯学習関連施設で展開されるさまざまな取り組みを知ることで、生涯学習の役割を検証するとともに、生涯にわたって学習することの意義を理解するための基礎を養うことを主な目的としている。	・家庭教育、学校教育、社会教育の役割を知るとともに、それらを幅広く包括する生涯学習の基礎知識を得る。 ・生涯学習関連施設の役割や取り組みから、市民参加者との関係性や連携について学ぶ。 ・生涯学習とボランティア活動、市民活動、NPO活動の関連について学び、生涯学習での学びを主体的に社会に生かすことの重要性について考察する力を身につける。										◎		○					
21UMUA3270	生涯学習関係論Ⅱ	3	音楽を中心とする芸術環境と生涯学習・社会教育環境について学び、両分野をコーディネートできる知識・実践を身につける。	生涯学習領域における音楽の役割を理解する。											◎		○				
21UMUA2271	音楽とマルチメディア	2	本授業では、音楽を鑑賞するという行為に注目し、過去からの変遷を学ぶことで、マルチメディアが音楽の聴取スタイルや音楽内容に変化をもたらしたことを知るとともに、マルチメディアを音楽活動の実践に活用するための視点を養うことを主な目的としている。	・マルチメディアの出現によって、音楽の聴取スタイルや音楽内容自体に変化をもたらしたことを理解する。 ・現在身近なものとして使用する音楽再生機器がどのように発展してきたのか、過去からの変遷について知識を得る。 ・マルチメディアを音楽活動に活用するための方法を提案できる力を養う。		◎										◎					
21UMUA4272	表現技術演習	4	コミュニケーション能力と言語能力を高めるための演習である。音楽を媒体として相互理解をするにしろ、それを取り巻く言語による表現力が長けている方がスムーズに本質に近づく。寡黙なミュージシャンではなく、言語表現力の豊かな魅力的な人間になるための実践演習をする。	適切な言語を使って、心のふれあいができるようにコミュニケーション能力を高める。													○		○	◎	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性						
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4							
21UMUA4273	音楽文化創造学	4	本科目では、音楽を中心とする文化的営みについてその歴史、社会的背景について学ぶと同時に、現代社会において音楽による創造的実践について多面的に考察する。音楽は時代や地域によって多様な特色を有するが、主に西洋音楽を対象として社会との関わりで音楽を捉え、その時々の音楽がどう受容されていたのかを考察し、そこから現代社会における音楽の在り方について、自らの考え方を提示できるようにする。	前期：西洋における音楽が社会の中でどのように展開していったのかをその時々の出来事と照らし合わせながら考察できるようにする。その基盤として、主要な音楽作品、音楽家に対する理解を深める。 後期：日本および世界の主要な劇場、音楽団体（オーケストラ、オペラ座など）について学び、そこで実施されているコンサートおよびそれに付随する活動について学ぶ。併せて文化政策と文化行政についても見渡せられるようにする。そこから、現代社会で想定される場面ごとに求められる音楽活動について説明し、企画提案できるようにする。	◎									○						
21UMUA3274	音楽文化事業企画演習	3	音楽や文化に関する事業の企画者として必要な能力を獲得することを目的とする。	音楽事業を実施するにあたって理解すべき事柄を習得し、実践する。	○									◎	○	○		○		
21UMUA4275	音楽活用実習	4	これまでに学習した音楽活用の各領域についてより実践的な能力を身につける。	アーツマネジメントおよび生涯学習に関する関係機関などの状況を具体的に理解し議論できるようにする。	○									◎	◎		○	○	○	
21UMUA1290	キャリアデザイン論	1	本講義では、臨床医工学・情報学の融合分野において、受講者が目指すキャリアを明確化してキャリアパスを設計し、実践的なスキルを獲得することで、社会で主体的に活躍できるようにすることを目的とする。	①臨床医工学・情報学の融合分野において、社会で活躍する外部講師の講演から、将来のキャリアパスをイメージし、具体的に組み立てることができる。 ②外部講師の講演から多様な働き方があることを認識し、ライフイベント（出産、育児、介護）と仕事の両立やキャリアを継続するために利用可能な制度等に関する知識を持つ。 ③受講生同士のディスカッションを通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身につける。	○														○	
21UMUA1291	地域活性化実践論	1	地域の活性化に必要な知識、構造、問題点等を明らかにし、系統的に理解することにより、地域再生に必要な方策を考える能力を身につけることを目的とする。特に、関西地域の活性化に向けて、医療・医学、福祉、医工学・情報学分野でどのような取り組みが必要であるか、またどのような連携システムの構築が必要であるかを学習する。	①課題テーマに対して、医療、福祉、ICT（情報通信技術）など多分野から考察することができる。 ②グループが1つのチームとして有機的に活動し、協調的な学習から「地域活性化」に向けた取り組みを提案することができる。 ③異分野の学生とのグループディスカッションおよびグループ発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身につける。	◎														◎	○
21UMUA3285	プレプロフェッショナル教育	3	近年の医・歯・薬学、工学・情報学の目覚ましい発展により、各分野を融合した医工学研究領域が新たな学問として脚光を浴びている。しかし、医学を理解した工学・情報学系の人材、工学・情報学系を理解した医療従事者は乏しいのが現状である。本科目では専門色が強く、かつ実習を取り入れた講義を行い、医工学領域の即戦力として活躍するために必要な知識を得ることを目的とする。	①専門科目では、臨床医工学・情報学の融合分野における最新の知見を学習し、各講義テーマと自らの専門分野・関心領域の知識とを結びつけて考えることができる。 ②共通科目においては理系（科学）英語の読み方・書き方および統計解析の考え方を学び、演習を通して研究をする上で必要となる基礎的なスキルを身につける。 ③実習では医療や福祉の現場を体感し、最新の機器等について理解を深めるとともに、講師とのディスカッションから研究倫理・職業観を養う。 ④本科目全体を通して、臨床医工学・情報学の融合分野への興味関心を喚起しながら自らが進む方向（分野）を考え、将来のキャリア形成の一助とすることができる。	○											○				